

## 図書館企画展示

### 絵図からせまる宮島

#### —近世の景観を覗いてみませんか—

平成24年7月2日から7月14日まで、本学広島キャンパス図書館において企画展示「絵図からせまる宮島 —近世の景観を覗いてみませんか—」を開催しました。この展示では、東町・西町・弥山についての発見に焦点をあてました。宮島学センター所蔵資料だけでなく、宮島に伝わる絵図や屏風などの資料も写真パネルで展示しました。

この展示は、学芸員養成課程の授業科目「博物館実習」（担当：松井輝昭、大知徳子）の受講生である国際文化学科4年の仲山瞳さんと、平成23年度の展示「みやじま・いきもの展」でも活躍した国際文化学科3年の山本直人さんが担当しました。また、大学院生の中川瑛梨さんも、平成23年度に引き続き学生に指導・助言をおこないました。学生たちは授業や卒業論文、就職活動の合間を縫って準備を進めました。

宮島では、大聖院、宮島歴史民俗資料館で資料調査をおこないました。大願寺をはじめ、宮島にお住まいの方々にも、様々なご助言をいただきました。

合計3回の展示説明会を実施し、展示期間中に延べ602名の方が来場されました。



## 学生の感想

私は東町を担当しました。東町について調べることで、交易・商業という点から新たな宮島を知ることができました。今回の展示には、「近世の景観を覗いてみませんか」という副題がついています。同じ場所の絵図でも描かれ方の微妙な違い、一方には描かれていないものがあるなど発見できました。皆様も持ち帰った資料の絵図を見比べて、新たな発見に挑戦してみてください。そこから新たな宮島を感じていただければ幸いです。

(文章は図書館展示図録より抜粋)

(国際文化学科3年 山本 直人)



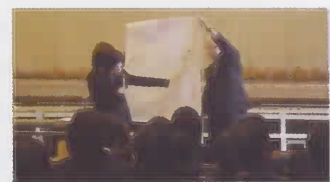
## 宮島学園での展示

廿日市市立宮島小学校・中学校文化祭（11月2日）で、宮島学センター所蔵資料を展示しました。これは7月に開催した図書館企画展示の一部を再現したものです。児童・生徒、教職員、保護者の方々など約200人が来場されました。

子どもたちの前で、学生たちが展示に関するクイズを出題しました。

「今から300年前、宮島にある白糸の滝では、ある生き物が飛んでいました。さて、その生き物とは？」

答えは…蛍です。





## 西町について

私は今回の図書館企画展示で西町を担当しました。

西町の展示でとりあげたものの一つは中西町にある多宝塔です。多宝塔は大永3年（1523）6月の建立と

伝えられ、国の重要文化財に指定されている二重塔です。私は多宝塔の廻廊に注目しました。多宝塔には廻廊は存在しなかったといわれており、現在もありません（図1）。しかし、いくつかの絵図には廻廊がはっきりと描かれています。それが今回の展示でとりあげた「宮島図屏風」（東京国立博物館蔵）、「巖島・三保松原図屏風」（図2：廿日市市宮島歴史民俗資料館蔵）などです。

前者では、多宝塔の下部に三角屋根の廻廊らしき建物が確認できます。建物は屋根の色など多宝塔になじむように描かれており、少なくとも多宝塔に付属する建物であると考えられます。また後者では、多宝塔に廻廊がはっきりと描かれていることがわかります。描かれた廻廊は長く、非常に立派です。さらに廻廊の中をみると、ふもとから多宝塔に参詣する人々の姿を確認することができます。

では、なぜ存在しなかったはずの多宝塔の廻廊が描かれているのでしょうか。展示で何度も用いた「巖島図屏風」（大聖院蔵）の多宝塔を見ると、廻廊は描かれていません。しかし隣には屋根のついた建物があることがわかります。この建物は先に挙げた屏風に描かれた廻廊と屋根の形や位置が似ています。このことから、江戸時代に多宝塔のすぐ近くには何らかの建物があったと考えられます。当時の人達はこの建物を誇張・強調することで、廻廊として描くようになったのではないのでしょうか。

また、展示ではかつて宮島にあった二つの鐘楼をとりあげました。一つは巖島神社の本社と朝座屋の間にあったといわれる大鐘楼、もう一つは宝蔵の後ろにあったといわれる時の鐘です。いずれも明治初年の神仏分離の際に廃され、現在はありますが、江戸時代の絵図（「安芸州 巖島図会」、「巖島図屏風」）には描かれており、確かに存在していたことが確認できます。大鐘楼は神社で働く内侍や社家らの出仕の合図に用いられたといわれており、非常に色鮮やかで豪華なものでした（「芸州巖島図会」、「明治維新神佛分離史料」）。また時の鐘も同じく社家の出仕の合図に用いられたほか、本地堂で行われた供僧の夏安居の際に時を告げる

役目を果たしていました。

そのほかにも、西町の展示では大願寺山門の仁王像、石風呂、大元をとりあげました。人の手によって描かれた絵図には、多宝塔の廻廊にもみられるように多くの不思議が隠されており、比較することで新たな発見があります。これからは絵図を通して、それらを探っていきたいと思います。



図1 多宝塔（平成24年6月7日撮影）  
現在の多宝塔である。廻廊はない。



図2 廻廊がついた多宝塔  
「巖島・三保松原図屏風」

（廿日市市宮島歴史民俗資料館蔵）

江戸時代中期の屏風絵である。多宝塔には立派な長い廻廊がはっきりと描かれている。またふもとから廻廊を通り多宝塔に参詣する人々の姿も確認することができる。

（国際文化学科4年 仲山 瞳）





## 平成24年度「地域文化学(宮島学)」

平成24年度の「地域文化学(宮島学)」は、日本史、日本文学、日本芸能史、中国文学などを専門とする教員が担当しました。

4月21日には、広島県立美術館で開催されたNHK大河ドラマ50年特別展『平清盛』を観覧しました。国宝「平家納経」をはじめ、世界遺産・厳島神社に伝わる多数の至宝を目の前にして、教員が展示解説をおこないました。

7月2日には、宮島でフィールドワーク「神仏分離」を実施しました。

午前中は、松井教授の案内で、神仏習合・神仏分離の跡を残す史跡を巡りました。事前授業で学んだ知識を踏まえて、仁王門跡、要害山、不動堂、神力寺跡などを訪れました。午後からは大願寺を拝観し、ご住職の平山真明氏による講話を聞きました。

7月9日には、特別講師として木本弘士廿日市市立佐方小学校長をお迎えし、「世界遺産教育における宮島・佐方の文化財」というテーマで講義をしていただきました。

日程	テーマ	講師
4/16	「地域文化学(宮島学)について」	大知 徳子
4/21	「平清盛展」観覧	
4/23	平清盛の厳島信仰	松井 輝昭
5/1	王朝文化継承者としての平家の人々	西本 寮子
5/7	中世の宮島と廿日市	秋山 伸隆
5/14	毛利元就の厳島信仰と石見銀山	秋山 伸隆
5/21	中世の厳島と能楽	樹下 文隆
5/28	「厳島八景」の成立とその伝播	柳川 順子
6/4	厳島神社の神饌・ぶとまがり	大知 徳子
6/11	様々に描かれた厳島神社	松井 輝昭
6/18	厳島の神仏分離	松井 輝昭
6/25	厳島の神仏分離	松井 輝昭
7/2	フィールドワーク「神仏分離」	
7/9	世界遺産教育における宮島・佐方の文化財	佐方小学校長 木本 弘士氏
7/23	学生によるレポート報告会	



期末にはレポート報告会を実施しました。学生のレポートテーマは次のとおりです。

テーマ	発表者
平家納経にみる女性	村上朱音さん
平清盛の厳島信仰	賀媛さん、姜虹宇さん
天女伝説からみる清盛の信仰心	信藤紗穂さん、保田侑希さん
厳島八景～鏡池秋月～	西村菜摘さん

## 宮島観光英語ボランティアガイド講座

「宮島観光英語ボランティアガイド講座」(全11回)を実施しました。講師はリチャード・ウェバー氏です。この講座では、宮島の観光案内の知識を身につけ、外国人観光客を英語でガイドできる力を養いました。

日程	テーマ
9/25	Meet the participants; explain the course; Miyajima practical quiz; introduction to Miyajima
10/2	First virtual tour of Itsukushima Shrine, part one; names to remember; expressions to guide; introduction to Shinto and Buddhism; relationship of temples and shrines
10/9	Virtual tour of Itsukushima Shrine, part two; numbers to remember; practice key vocabulary and expressions to guide
10/16	History of the Ootorii, Senjokaku/Toyokuni Shrine, and the Five-storied Pagoda; virtual tour; practice key vocabulary and expressions to guide
10/23	History of Daiganji and Daishoin temples; virtual tour; shopping for souvenirs; foods of Miyajima; other shrines, temples, and significant places to visit; practice key vocabulary and expressions to guide
10/28	宮島での英語ガイド練習会 講師：堀益 芳子氏
10/30	Putting it all together; final virtual tour; practice expressions learned; Q & A
11/6	Students' virtual tours; comments and corrections
11/18	Meet at Miyajima-guchi JR ferry terminal for hands-on guided tour experience
11/20	Feedback on guided tour experience; review any questions or problems encountered; wrap-up
11/23	Meet at Miyajima-guchi JR ferry terminal for hands-on guided tour experience

## 実践編の様子

11月に実施した実践編（宮島でのガイド）では、イギリス、イタリア、インド、オーストラリア、フランスなどから訪れた外国人観光客を案内しました。

宮島口棧橋でFree English Toursのポスターを持った学生たちが、訪れた外国人観光客にガイドを申し出ました。



ガイドの主なコースは、宮島口棧橋～フェリー～宮島棧橋～海岸通り～石鳥居・狛犬～巖島神社～大願寺です。

巖島神社の入り口では、手水の作法についても説明しました。



## 学生の感想

- ・手水や参拝の仕方をしっかりと見て、同じようにやってくださったのは嬉しかった。(M.K)
- ・観光客の出身国によって英語の発音も様々で、聞き取りにくいこともあった。ガイドが終わった後、「あなたたちの発音は、とても聞き取りやすかった」との感想をいただき、嬉しかった。(C.H)
- ・日本に来られている貴重な時間で、ガイドに応じていただき本当にありがたかった。少しでも楽しんでいただけていたら嬉しい。(C.K)

## 全国巖島神社参詣記④

### 福岡市・巖島神社

所在地：福岡市博多区美野島二丁目31

#### ●巖島神社（福岡市博多区美野島二丁目31）

那珂川近くの住宅地にひっそりと鎮座していた。社の裏面には「博多驛地区区画整理之為御鎮座地大字住吉字南小路七六一番地当所へ御遷座セリ」と書かれていた。

博多駅地区の区画整理の際に、この場所に遷座したことがわかる。なお、御神紋は「三菱亀甲」ではなくて「右三つ巴紋」であった。



### 下関市・巖島神社

所在地：下関市伊崎町一丁目7-23

#### ●巖島神社（下関市伊崎町一丁目7-23）

伊崎浦を見下ろす小高い丘の上に建っている。長い石段の登り口に一の鳥居（正徳年間）がある。

巖島神社は南西（坤）を向いて立っており、境内末社の鈴ヶ森稻荷神社は巖島神社と平行ではなく、やや南東（巽）を向いて建っていた。

『山口縣神社誌』によると、源平合戦の際に平家の軍船に勧請した巖島大明神を、平家の一人が伊崎浦の岩



上に安置し、鎌倉時代に浦の翁が小社を建立したのが創建の由来であると記されている。

（秋山 伸隆）



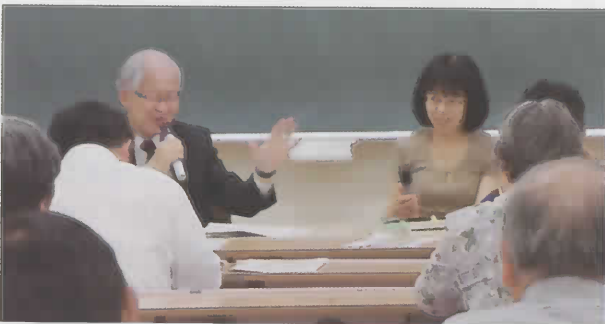
## 平成24年度公開講座・講演会

広島県立美術館・県立広島大学宮島学センター連携公開講座  
『平清盛』展から何がみえてくるのか  
～今日に続く厳島文化の原点を探る～

(広島県立美術館と共催)

会場：広島県立美術館 講堂 (5月20日)  
県立広島大学広島キャンパス (5月27日)  
受講者：延べ83名

日程	テーマ	講師
5/20	「平清盛展の展示作品から」	広島県立歴史民俗資料館 主任学芸員 石橋健太郎 氏
	「平家の時代を考える — 物語文学研究の立場から—」	西本 寮子
5/27	「平清盛展の私的鑑賞法」	広島県立美術館 主任学芸員 宮本真希子 氏
	「平清盛の厳島信仰と女性たち」	松井 輝昭



### 宮島学センター公開講座

(廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催)

会場：国民宿舍みやじま杜の宿 (宮島)  
受講者：延べ297名

日程	テーマ	講師
6/20	平清盛と『平家納経』	松井 輝昭
9/12	厳島八景の成立とその伝播	柳川 順子
1/30	『辛未紀行』から見る厳島参詣	大知 徳子

### 宮島学センター公開講演会

(広島県立歴史博物館と共催)

会場：広島県立歴史博物館 講堂  
受講者：78名

日程	テーマ	講師
12/1	聖護院道増と宮島・鞆	秋山 伸隆
	将軍足利義昭の西国下向と鞆・宮島 — 「情報」の流れに注目して—	松井 輝昭



会場では、当日限りのミニ展示会を実施しました。宮島学センターが所蔵している宮島関係の資料のうち、戦国時代の古文書、江戸時代の絵図などをご覧いただきました。

### 地域学公開講演会

宮本常一先生と広島 — 山・里・海・浜をゆく —  
(福山市立大学・尾道学研究会と共催)

会場：県立広島大学

日程	テーマ	講師
3/2	宮本常一先生と広島 — 山・里・海・浜をゆく —	広島女学院大学 名誉教授 藤井 昭 氏
	宮島学センター紹介	松井 輝昭
	展示会 「福山学・尾道学・宮島学を つなぐ写真・絵はがき展」	・福山市立大学 講師 八幡 浩二 氏 ・尾道学研究会 事務局 林 良司 氏 ・大知 徳子



### 研究余録④

## 弥山の描かれ方の変容と神仏分離

宮島の最高峰である弥山の山頂部には、約3から6メートルの巨岩が林立もしくは重なっている。この光景を目の当たりにしたものは、誰しもその偉容に目を見張る。近代になると識者たちはこの巨岩群を、原始信仰に関わらせて理解する。弥山の山頂部にある巨岩群を、神が天下った磐座と考えるのである。

しかし、弥山について細かな説明を加える、『厳島道芝記』(1697年成立)・『芸藩通志』(1825年成立)・『厳島図会』(1842年刊)という地誌では、山頂上部の巨岩群について何も触れていない。これらの地誌に収載された挿絵でも、弥山の山頂部の巨岩群は取り上げられていない。「弥山全図」(『厳島図会』)の画中詞として、

わずかに「頂上カベシロ岩」とあるのみである。これは弥山の山頂部に聳え立つ、壁白のような巨岩という意味であろう。なお、18世紀末頃から昭和前期にかけて、宮島を描いた巖島絵図が繰り返し版行された。この巖島絵図でも文化4年(1804)の「巖島弥山細見之図」から(図1)、弥山山頂に巨岩が一つ描かれるようになった。以後はこの巨岩に何度か「頂上カベシロ岩」という名称が与えられた。

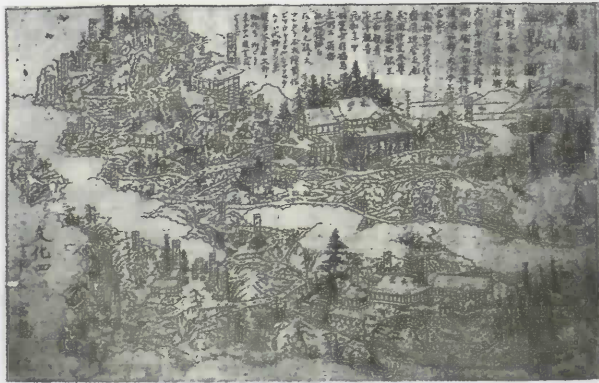


図1 巖島弥山細見之図(1807)

しかし、弥山の山頂部を代表するのはこの巨岩ではなく、弥山本堂と呼ばれた毘沙門堂もしくは求聞持堂であった。ところが、明治初年の神仏分離令以降になると、これらの仏堂が大聖院に付けられたためか、巖島絵図の弥山山頂部の描き方も大きく様変わりする。弥山山頂の巨岩がますます肥大して描かれ(図2)、噴火で新たにできた瘤のように見える。



図2 日本三景の一 巖島実地真景之図(1897)

巖島神社本社の背後にある後苑(うしろぞの)も、この描き方に呼応して肥大化しているのに気付く。巖島絵図のなかで巖島神社の本社と後苑と弥山の山頂が、あたかも一本の線で結ばれているように見える。

このように三つの地点が強調された描き方は、神仏分離以前の巖島絵図には見られなかった。ゆえに、巖島神社の祭神が天下ったところが、弥山山頂部の巨岩群であるという説明は自明とはいえない。これは後代に生まれた発想であろう。(松井 輝昭)

## 資料を御寄贈いただきました

宮島学センターに次の資料を御寄贈いただきました。お礼申し上げます。

### 高島 隆氏

広島県立広島商業学校(現 広島県立広島商業高等学校)の野球部が全国優勝した際に、アメリカに贈った古写真をご寄贈いただきました。台風の被害で現存しない灯籠や、太く立派な松が写っており、当時を知る貴重な資料です。



### 《お詫びと訂正》

宮島学センター通信第3号にて紹介した寄贈資料について、成立年の記載に誤りがありました。お詫びして正しい記事をご紹介します。

横山忠司氏より、以下の資料をご寄贈いただきました。

「巖島」(巖島神社社務所、昭和32年(1957))

## 編集後記

宮島学センター通信第4号をお届けします。平清盛で盛り上がった平成24年の宮島。本センターでは引き続き、清盛以外の見どころも紹介していきます。(〇)

## 編集・発行

### 宮島学センター通信 第4号

平成25年3月15日発行

### 県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9550

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/miyajimagaku/index.html>